

どんぐり山行通信 松ノ木沢の頭

第65号

2011年7月16日(土)

晴れ

参加者 15名

鶴ヶ島



どんぐり山行会

まつのきざわのかしら(1484m)



湯檜曾川をはさんで谷川岳とその沢に対峙する白毛門。土合山の家を通過して小さな鉄橋からスタート。無風でかんかん照りのなかを登り始める。樹間から山肌と沢が見え隠れする。単調な登りで汗が噴き出



る。とんがった山は武能岳か。滝が沢音をたてている。白毛門沢のタラタラノセン。頭上でヘリコプターの音がする。谷川岳というと遭難を連想するが。翌朝の新聞に、幽ノ



沢で雪渓が崩れて死傷事故があったとのこと。どんぐりはそんな難しいロッククライミングとは無縁だが、暑さで皆あせまみれの苦闘だ。途中ドラエモンが魔法のポケットから柚子シャーベットをふるまう。追いついていく若者もおすそ分けにあずかり感謝。隊列が少しづ



つ離れ始める。高度を上げていくとトマの耳、オキの耳が、そして多くの岳人の命を吸い取ったマチガ沢、一ノ倉沢、幽ノ沢が残雪を抱いて見える。命を賭けてでもこの岩壁を攀じ登りたいという魔力があるのだろう。この暑さでもいまだに雪が残っているのは相当な積雪量だ。昼近くに松ノ木沢ノ頭に到着。目前にジジ岩ババ岩を従えて白毛門がそびえる。我がどんぐりのジジババはここで弁当をひらく。冷たいトマトがまわってくる。白毛門は次の機会ということで来た道を引き返す。我々は大関魁皇のようにボロボロになるまではやらない。なでしこのようにしなやかに華麗にふるまうのだ。昼休みで少しは元気を回復する。大汗をかいたおかげで1人平均2kg 15人合計30kgの大減量に成功。帰りのバスでビールを飲めばすぐもとに戻るけれど



ど・・・。出発点の河原の溪流で汗をぬぐい着替えを済ませてさっぱりした気分です。帰途に。

(伴記)

